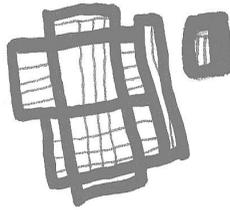


ひとりひとりの学生を大切にしたい大学づくりを

―元氣の出るキャンパスづくりを目指して―



学生課 内藤智徳

名古屋短期大学

はじめに

アメリカ発の金融危機による世界同時不況は、わが国にも未曾有の経済危機をもたらし、深刻化する雇用不安や年金・医療制度の改悪などあいまって社会不安は一気に広がっています。大学においては、十八歳人口減による全入

時代に突入し、各大学とも生き残りに躍起になっています。職場においては、厳しい競争的環境のもと管理強化が進行し補助金獲得が至上命題になっている結果、「学生不在」の大学運営が行なわれています。大学職員も非正規職員の割合が増え、大学づくりに少なからず影響が出ています。そこでこのたび、大きく変化してきた環境の中での、本学

での課外活動における「ひとりひとりの学生を大切にした大学づくり」の取り組みを紹介することで、これからの大学づくり・大学職員のあり方における問題提起ができればと思います。

名古屋短期大学とは

本題に入る前にまず本学の概要を紹介します。学科構成は、保育科、英語コミュニケーション学科、現代教養学科の三学科で、同じキャンパス内には、桜花学園大学保育学部(平成十四年設置)が併設されています。学生数は、短大が千名と四大が五百名の約千五百名になります。学生組織として、「学生会」があります。執行委員会の下に特別委員会として、「大学祭実行委員会」、「新入生歓迎実行委員会」、「卒業を祝う会実行委員会」の常設委員会があり、年間を通じて活動をしています。サークルは四〇前後あり、



桜花学園大学保育学部学生課長を兼務し、現在に至る。

ないとう・とものり●一九五五年、岐阜県生まれ●一九七九年から名古屋短期大学学生課で就職・課外活動支援を担当。二〇〇六年から日本私立短期大学協会学生生活委員、二〇〇七年から

学生の約八〇%が委員会やサークルに加入しています。

学生会の最高決議機関として、年二回(五月と十月)定期学生大会があります。大会では、活動総括、基本方針、予算・決算報告、その他重要な事項を審議決定します。十月の後期学生大会では、執行委員会の改選があり、決選投票が行なわれたこともあります。特別委員会のメンバーもこの大会で選出されます。

十一月には、キャンパスの一大イベントである大学祭(名桜祭)が、学生や地域住民など一万人を超える参加者で盛大に行なわれます。十二月にはリーダーズキャンプがあり、課外活動団体(各実行委員会、サークル)からの各代表者と教員・職員が合宿をして、活動上の問題や今後の対応を話し合います。三月十六日は卒業式があり、式典終了後に「卒業を祝う会」を在学生が中心となって企画運営しています。このように、学生会を中心に年間を通して、課外活動が大変活発に行なわれている短期大学です。

新入生オリエンテーションでの学生との連携

本学では、いかに早く学生生活に慣れ、本学の構成員のひとりとして自覚し、諸活動が円滑にすすみ、豊かな学生生活が実現できるよう支援してきました。そのためには、

スタートである新入生オリエンテーションでの働きかけが重要であるとの認識から、「新入生歓迎実行委員会」と協力共同して学生生活支援に取り組んできました。

四月当初のオリエンテーションはもちろんのこと、入学前オリエンテーションであるオープンキャンパスや各種入学試験においても、新歓委員会とタイアップしていろいろ取り組んでいます。具体的には、駅から大学までの道案内や受付・教室までの誘導、キャンパス内の施設案内、在学生として学生生活の紹介などを協力してもらっています。多くの大学のようには、アルバイト学生を雇って案内などをしてもらうところですが、本学では、このことが新歓委員会



サークルの勧誘風景

活動の一つになっています。新入生に本学へ入学動機を尋ねると「新歓の先輩のような学生生活を送りたいから」ということをよく耳にすることから、新入生の学生生活の早期定着に少なからず影響を及ぼしています。

世界遺産の新入生歓迎実行委員会

新入生歓迎実行委員会は、以前は多くの大学で活動していましたが、現在ではその名をほとんど耳にしたことがありません。この委員会は、本学の宝の一つです。元々は、学生会独自の新入生を歓迎する活動をしていましたが、いつの日からか、一般入学試験での受験生に対して、駅からの道案内や試験会場への誘導を手伝ってくれるようになりました。

現在では、数回実施される入試での協力のほかに、オープンキャンパスでの駅からの案内、資料配布、キャンパス施設案内、サークル紹介など、大学と連携して入学前の歓迎行事として委員会活動の幅を広げています。四月入学後の本来の活動として、いくつか企画があります。全員を対象としては、体育館での「学生会オリエンテーション」があり、学生会組織・サークル・委員会などの説明や紹介をしています。

また、「たてわり合宿」という企画では、新歓の二年生が新入生に対して、学生生活の送り方を伝授しています。その他「ファーストチャンス」・「テイクオフ」・「春キユン」などの歓迎行事が企画されています。この実行委員会には、例年一、二年で二百名という多くの学生が集まります。それは、「不安な気持ちで入学してきた自分に、いろいろ親切に教えてくれたので、今度は自分が後輩にしてあげたい」というのが、実行委員になった理由です。この素朴な気持ちがこの委員会の活動を支えていると思います。

「たてわり合宿」

保育科の創立当初から行なわれている一泊二日の伝統行事で、学生生活の送り方を合宿の中で、二年生が一年生に指導するものです。現在では、すこしやり方は変わってきていますが、学科ごとにスケジュールを組んで新歓二年生が、デイスカッション・プレゼン・レクリエーションなどを通じて、学生生活の送り方を伝授しています。学科としても、学外でセミナー合宿を行なっていますが、学生の視点で行なわれていますので、仲間づくりや学生生活導入へのよい機会になっています。場所は、キャンパス内にある

セミナーハウスを使用しています。

なぜ短期大学でも元気が

このように、伝統的に大学が学生会と連携して、協力共同体制のもと大学づくりを進めてきましたが、もう少し本学の課外活動への取り組みの特徴を紹介します。

まず、先ほどから繰り返し説明していますが、四月当初からのガイダンスや学科セミナーなどで、教員・職員が在学生の協力を得て、新入生に対して学生生活の送り方を指導していること。その結果、サークル・委員会への加入率は、約8割と全国的にもトップクラスの数値になっています。特に「大学祭実行委員会」や「新入生歓迎実行委員会」には、それぞれ百五十名―二百名近い実行委員が所属し、キャンパスライフの核として活躍しています。十一月上旬には、大学祭が行なわれますが、一般学生の参加意識は高く、ほぼ全員が何らかの形で参加をしています。また、二日間でのべ百八十のゼミ・サークルの模擬店が出店し、来場者は、地域住民・卒業生・他大学の学生など約一万人を超えています。

学生との協力共同関係を支えているのが、「二者懇談会」というもので、課外活動の指導における本学の一番の特徴

ではないかと思っています。短期大学において、二年間という短い期間で、サークル・委員会活動での経験の蓄積の伝達が出来難くなってきました。これを補うのが、教職員員の役割だと考えます。とりわけ学生課職員にはそれが求められます。学生会執行部や各実行委員会に対して、日常的に懇談会を開いて、活動状況、問題点を聞き適宜アドバイスを与えています。逆に大学として、学生の意見を聞いたり、協力をもとめる場合もあり、上から指導をするというより大学づくりのパートナーとしての意思疎通をはかる機会になっていきます。また、懇談会を重ねることで信頼関係も生まれてきます。

事務局では、学生が相談しやすい窓口づくりに努めています。オープンカウンターやワンフロアで仕切りがなく、各部署が同じスペース内にあって連絡がとりやすいの



たてわり合宿の一コマ

で、タイムリーに学生への支援が実現できています。実際、事務局の窓口は学生の応対で大変にぎやかです。その結果、学生と教職員との垣根は低く、合宿をしたりバーベキューをしたりと活発な交流が展開されています。

学生大会は元気の源

学生組織である学生会は、年二回(五月、十月)学生大会を開催して、活動総括・方針、予算・決算などを審議決定しています。最近では、伝統のある大規模校ですら、すでに成り立たない状況の中で、本学の学生大会が、毎年七〇～八〇%という高い出席率で成立していることは、特筆すべきことではないかと思えます。

もちろん、学生会執行部は、大会成立にむけ一生懸命取り組んでいます。大学としても側面から、いろいろ支援をしています。例えば、学生大会終了後に就職ガイダンスを設定して、一般学生が大会に参加しやすい環境をつくってきました。また、大会では、学生から大学に対して様々な要望・意見などが出されます。それらを集約して、「学生会要求」として学長あてに提出します。施設や勉学条件などの要求に対して、大学側は、真摯に受け止め各部署で検討して学長名で回答をしています。すぐには解決できな

い事柄もありますが、実現できることは、誠実に対応してきました。要求提出にあたっては、団体交渉を実施し要求内容を確認します。期限までに文書で回答し、学生会はその回答内容を掲示で、全学生に知らせます。当たり前のことですが、大学づくりの観点から原理原則を守り、学生を大学構成員として対応してきたことが、学生の自治意識・帰属意識などを促してきたと思います。

盛り上がる大学祭

大学行事への参加意識の低下が叫ばれる昨今ですが、大学祭での盛り上がりも、本学の自慢の一つです。学生数は、短大と四大をあわせて約千五百名ですが、ほとんどの学生が、ゼミやサークルを通じて大学祭期間中何らかの形で参加しています。

大学祭は、十一月の第二金曜日・日曜日に行なわれています。金曜日は、午前がスポーツ祭典、夕方から前夜祭を、土曜日・日曜日の本祭では、子ども企画からステージ企画まで、幼児から大人までが楽しめますので、地域からも大勢の参加があり、二日間ののべ来場者は一万人を数えています。スポーツ祭典は、グラウンドでリレー・障害物競走などの運動会形式で行ないます。学生の参加率は、学科によ

って差がありますが、約七割という高い数字です。そこに教員・職員もチームをつくって参加しますので、盛り上がりがないわけがありません。

また、大学祭のもうひとつの特徴は、保育科があるということもあって、子どもの数が大変多いことです。子どもが多いと言うことは、保護者やお年寄りもいらっしやいますので、幅広い世代から支持をされています。さらに、教員や職員を訪ねてくる卒業生が多く、学生時代の思い出を懐かしむ同窓生交流の場になっています。

学生も、ゼミ・サークルの模擬店を中心に大変盛り上がっています。例年二日間で百八十店というように、ほとんどのゼミが参加します。日頃のゼミ活動における学生同士のつながりが希薄であれば、大学祭には参加しないと思います。もちろん最初から全員が盛り上がりつつあるわけでは



学生大会、前方は執行部

なく、温度差もあり大学祭に対して消極的な学生もいると思います。が、ゼミの仲間や教員・職員との交流を通して思い出がで、結果的にかけがえない貴重な経験をしています。このように本学の大学祭は、コンサートなど客集めのための目玉企画はありませんが、一般学生がた

大盛況の大学祭



くさん参加し、ひとりひとりが大学祭に対してひたむきに取り組み活気のあるところが特徴です。

みんなでつくる大学祭

その大学祭に、職員がどのようにかかわってきたのかを紹介したいと思います。女子短大ですので、当然男性は教職員しかおりません。このように大規模に実施していますので、テントを他の大学から借りるためのトラック運転、看板立て、垂れ幕設置、井桁組み立てなど力仕事や危険をともなう部分については、男性職員が中心となって協力をしています。

大学祭実行委員は、一、二年で例年百五十名ほどいます。執行部を中心に十一企画に分かれ、それぞれ一年かけて準備を進めます。その準備がうまくいくように、「二者懇談会」を開いて、準備状況を確認し、問題があれば適宜アドバイスをしています。二者懇談会のメンバーは、学生委員会から選出された大学祭担当の教員・学生課職員です。短大の宿命である経験の蓄積が引継ぎにくい部分を、大学側とりわけ学生課職員が補完することが、二者懇談会のひとつの目的です。また、この活動を通じて大学づくりのパートナーである学生のやる気を引き出し、大学の構成員とし

での自覚を涵養させることも、大切な目的になっていきます。

かつては、大学祭に対する教職員の意識にも温度差はありましたが、学生委員会を中心に参加を働きかけたり、事務局では、スポーツ祭典に職員チームとして参加したり、コーヒーショップなどの模擬店を出すなどして雰囲気盛り上げてきました。最近では、大学祭期間中に高校生向けのオープンキャンパスで、入試説明や学科説明を実施していますので、ほぼ全員の教員・職員が参加をするようになっていきます。

大学祭翌日の月曜日は、授業を休講にして片付けをしています。半分以上の学生が、朝早くから登校して、教室やグラウンドなどの片付けをしています。当然のこととはいえ、大学祭での盛り上がり以上に学生たちのこの姿勢が本学の誇りです。

手づくりの「卒業を祝う会」

どの大学でも、「謝恩会」のようなものは行なわれていると思います。本学でも約三〇年前までは、名古屋の中心街のホテルで謝恩会が、学科ごとに行なわれていました。しかし、教職員分の費用負担もあって卒業生の参加費は高く、さらに卒業式当日ではなく後日実施されていました。

で、参加人数も多くありませんでした。

そんなとき、教職員の中から「卒業式終了後に全員で祝うことのできる会をやりたい」という声があがり、在学生と教職員との手作り祝賀会である「卒業を祝う会」がスタートしました。これを企画運営するのが、「卒業を祝う会実行委員会」で、当然ながら一年生のみですので、経験の蓄積がないため担当教職員が協力して一緒に作り上げてきました。

当日は、午前中に卒業式典が終了し、一時間で立食パーティ形式に模様替えをしなければいけません。実行委員は、教職員はもちろんサークルや委員会の一年生の協力を得て会を進めていきます。卒業生は、ゼミごとに先生を囲んで学生生活の楽しいひと時を過ごし、最後に、教職員・在学生の拍手・紙ふぶきのなか社会に旅立っていきます。

高い課外活動加入率

大学では、入学してくる学生の多様化に伴い、学生に豊かな知識を教授するだけでなく、教職員や他の学生との交流を通じて、いわゆるコミュニケーション能力など、複雑化し価値観が多様化した社会を生きるための基本的な能力（人間力）の涵養に努めることが求められています。



教員による出し物

全国的には、サークル活動など学生の自主的な活動が下火になる傾向にある状況で、本学では、例年七〇〜八〇%の加入率で、一人で複数所属している学生を含めると、百二十%というところでもな

い数字になります。「大学祭実行委員会」や「新入生歓迎実行委員会」は、それぞれ百五十名いますので、二つの委員会を合わせると、全学生の約二〇%を占めることとなります。大学によっては、ゼミ・クラスから強制的に選出したり、実行委員の活動に単位を出しているところもあります。本学では、まったく本人の自由意志に任せていますの

で、年度によっては多すぎたり、所属学科に偏りが出たりします。人数調整のために抽選をしたり、二年生による入会テスト(面接)を実施したこともあります。

なぜ、サークル(委員会)加入率が、高い理由については、はっきりしたことは言えませんが、キャンパスのあらゆるところから、学生生活の過ごし方についてのアドバイスを発信しています。二年生からは、「たてわり合宿」をはじめとする各種新入生歓迎行事を通じて、所属学科からは、学科セミナーの中で、教員や二年生から集団活動・課外活動の大切さが語られます。学生課職員からは、「学生課グループガイダンス」でアンケートを通じて新入生の実態を把握するとともに、豊かな学生生活実現のために仲間づくりの大切さ課外活動団体への加入を勧めています。このような働きかけが、学生のやる気を喚起し、課外活動への積極的な参加に繋がっていると思います。

「二者懇談会」は命綱

元々は、学生会執行部に対して、学生会要求に関する団体交渉の場でした。現在の二者懇談会は、大学運営に対する学生参加の一つの形態として捉えています。時代とともに手法が若干変化してきています。短期大学の宿命と言

える経験の蓄積を次に繋げることが困難なため、それを補完する目的で、学生委員会の担当委員(教員・学生課職員)が、大学祭実行委員会や新入生歓迎実行委員会などと、活動内容の報告を受け問題があれば助言を与えたりという支援を行なっています。しかし、顔を突き合わせて話し合いをしますので、パートナーとしての信頼関係を築くよい機会になっています。学生たちは、懇談会を通じて、自分たちの活動の意義ややりがいについて自覚していきます。この学生たちが、キャンパスの学生の諸活動での核として、一般学生や教職員に大きな影響力を与えていることは言うまでもありません。

学生でにぎわう窓口

いろいろな大学を拝見してきましたが、本学のような相談窓口に学生が絶えない賑やかな事務局は見たことがありません。自分の学生時代を思い起こしても、事務局は、必要最小限の用事でしか行かない場所です、学生にとって行きにくいというイメージでした。なぜなのか。まず相手の名前を知らない。相手が自分を知らない。怖そうで声がかげにくい。ドアがあつて中が見えないなどの理由があげられます。

そんなことから、私は職員としてできるだけ相談しやすい窓口づくりに努めてきました。中規模の短期大学で学生数もそれほど多くありませんでしたので、学生の名前を覚えることができました。就職相談や課外活動を通じて、学生が職員の名前を呼ぶことはあたりまえの環境でした。大学の教員は、高校までの担任と違って、なかなかつかまらないこともあり、いつでも相談できる職員を頼りに窓口にくる学生が多かったように思います。

また、セミナーハウスでの合宿やバーベキュー交流会など、伝統的に課外活動における学生との交流が盛んで、学生と職員との垣根が低いアットホームな関係が、事務局に対する学生の親近感につながっていったと思います。

教員との協力共同関係

いろいろな大学からは、教員と職員との仲の悪いうわさは伝わってきますが、うまくいっている事例はあまり聞いたことがありませんので、うまくいくほうが特殊なのかもしれません。これまで紹介してきました本学の活力の源は、教員と職員との関係が、良好で協力共同関係がしっかりあったところだと思います。他の短期大学との違いは、職員組合があつて、組合活動の中で一緒に大学づくりを行な

ってきたことです。時には、意見がぶつかったりもしましたが、対等に言いたいことが言える信頼関係があったことです。ですから、事務局に顔を出す教員は多く、そこで学生指導の情報交換をしたり、世間話しをしたりと、いろいろなコミュニケーションをとっています。

また、各種委員会にも、職員はオブザーバーではありませんでしたが、議論に積極的に参加してきました。現在、学生委員会・教務委員会・入試委員会では、規程上正式な委員会メンバーとして、審議決定に参画しています。

おわりに

本学は、短期大学の中では、特異な存在ではないかと思っ
ています。課外活動の加入率の高さ、大学祭での盛り上がり、就職実績のよさなど、学生満足度の高さがそれを証明しています。大学として、特別なことをしているとは思っていませんが、二年間での豊かな学生生活を実現するために、「鉄は熱いうちに打て」ではありませんが、四月当初のオリエンテーションでの働きかけが、とりわけ重要になっていきます。新入生歓迎行事を通じて、一人でも多くの学生に感動を与え、仲間との連帯感ややる気を喚起することができれば、キャンパスの中に自分の居場所を見つけ

ることができると思います。

この「新入生歓迎実行委員会」や「大学祭実行委員会」などの学生組織との連携は、大学づくりという共同作業において、足りない、気付かない部分を学生に補充してもらおうと同時に、学生自身に大学の構成員としての自覚を持たせる上で大いに効果があるといえます。また、このことが彼女たちの活動における誇りとやりがいを見出すよい機会になっていることが、学生生活全般において、まわりの学生はもちろん教職員にも大きな影響力を与えています。

学生支援関係の研修会などで、本学の課外活動の状況を報告すると、参加者からは驚きの声がかかります。「なぜそんなに高い加入率が実現できるのですか?」「新歓や大学祭になぜそんなにたくさんの実行委員がはいつてくるのですか?」「なぜ学生大会が成立するのですか?」と必ず質問してきます。なぜって聞かれて、一言「伝統です」と答えてしまえばそれまでですが、伝統は当然一日でできたわけではありません。時代とともに大学を取り巻く環境は大きく変化しましたが、大学・学生組織とも大きく変わらなかったこと、いわゆる一九六〇年代―七〇年代の全学連にオブザーバーとして参加していた頃の学生組織の形を残しつつ、「短期大学のガラパゴス」として独自の進化を遂

げたのかもしれませんが。

また、「学生を中心にすえた大学づくり」を、事務局がセンターとなって原理原則を頑なに守りながら、教員と協力共同して進めてきたことが、現在の活気あるキャンパスをつくっていると思います。とにかく、職員が「誰のための何のための大学づくりなのか」を常に自問自答しながら、自らも楽しく生き生きと仕事をすることができ、学生とのかかわりを大切にしながら感動を共有できたことが、いわゆる「元気の出るキャンパスづくり」が実現できた大きな要因だと思います。

今日の国民不在の政治のように、大学運営において、「学生不在」の経営管理を強化する大学が増えています。これからは、「ひとりひとりの学生を大切にしたい大学づくり」をしていかないと、真に「生き残る価値のある、国民から支持される大学」にはなれないということが言えます。

(学生会要求の変遷は32ページから)

学生会要求の変遷 名古屋短期大学・桜花学園大学保育学部

年月	主な要求項目
81. 6	・上靴廃止・自販機増設と両替機設置・マイク調整・サークル室雨漏り修理・傘立て設置等
81.10	・学費問題・昼休みの体育館自由使用・合宿者の体育館シャワー使用について 3号館の暖房・図書館開館時間の延長問題等
82. 6	・学内警備問題・学費問題(学費の用途)・施設改善(学生会館建設、スピーカー改善、合宿所改善、両替機の設置等)・保健室職員採用等
82.10	・学内警備問題・学費問題(学費の用途)・施設改善(学生会館建設)・保健室職員問題等
83. 6	・学費問題(経理公開、値上げ反対)・学内警備問題・施設改善(学生会館建設、傘立て、冷水機、グラウンド、テニスコート整備等)・保健室問題・就職問題等
83.11	・学費問題(経理公開、学費値上げ理由)・学生会館建設、・上履廃止問題等
84. 6	・学費問題(経理公開、施設整備費の撤回)・学内警備問題・施設改善(学生ホール壁塗り替え、合宿所に網戸設置、テニスコート整備、わたり廊下の改善、ピアノレッスン室の椅子の改善、部室の雨漏り等)・上履廃止・就職問題・学生会補助費の増額等
84.11	・学費問題・学内警備問題・奨学金問題・学生会補助費増額等
85. 4	・施設充実(給茶機設置、自販機増設、両替機、英文タイプ機の整備、トイレに石鹸、不燃物用ゴミ箱設置)・証明書発行手数料の値下げ、図書館コピー料の値下げ・アルバイト斡旋等
85. 7	・学費問題・施設改善(学生会館建設、学生食堂問題、売店問題、教室の冷房等)・ピアノ調律・名鉄改札口問題・学園奨学金問題・海外研修等
85.11	・学費問題(施設整備費の用途)・学生会館の建設 施設改善(外装工事、教室椅子の改善、教室壁の塗り替え、教室の暖房問題、学生用駐車場等)・上履廃止・図書館問題・学生食堂の改善・公衆電話増設、自動車通学、ポスト設置・名鉄問題(急行を中京競馬場前駅に止める要求等)
86. 6	・学費問題(経理公開等)・学生会補助金の増額・学生会館建設・掲示板の位置・事務昼休み中の受付・施設改善(体育館椅子の補充、傘立て補充、長椅子長机廃止問題、1号館の暖房の改善、2号館天井の改善、屋外ベンチの設置等)・図書館の上履き廃止 学生食堂問題等
86. 7	・施設整備要求(整地の利用計画)・上履廃止問題

86. 11	・学費問題(値上げ反対、経理公開)・施設整備(学生会館建設、学生会館管理運営、正門の整備)・名鉄問題・体育館の椅子の常備等
87. 1	施設整備(2号館照明改善、1号館暖房、ピアノレッスン室改善、学生ホールの掃除、照明灯増設)・臨時定員増に伴う教務運営上の要求等
87. 6	学費問題・名鉄問題・駐輪場問題、公衆電話増設、ピアノ調律、自動車通学問題等
87. 11	・生協設立要求・学費問題・施設改善(学生会館、合宿所、売店、ピアノレッスン室改善、掲示板改善)・図書館問題(視聴覚コーナー、開館時間延長、休館日の廃止等)・昼休み中の事務受け等
88. 6	・経理公開・学費値上げ問題・施設整備費使途・豊田短大の財源・生協設立、名鉄問題・施設改善(教室の長椅子、長机の修理、時計の修理、軟式テニスコートの整備、側溝の蓋の整備、体育館内放送の改善、サークル室の修理、合宿所の改善、トイレの改善等)
89. 6	・経理公開・学費値上げ反対・生協設立・名鉄問題・合宿所建設等
89. 7	・冷暖房について・授業内容と方法について・環境整備について
89. 12	・経理公開・学費値上げ反対・生協設立要求・名鉄問題、施設改善(冷暖房完備、机椅子の改善、合宿所の整備、自販機の増設、合宿所裏道の整備)・カリキュラムの改善・学生寮の改善等
90. 7	・学費問題・生協設立問題・施設整備計画問題・施設整備(学生ホール、サークル室、合宿所等)・授業内容について・時間割上の空き時間問題・図書館問題(CD設置、VHSビデオ導入等)・学生寮の改善・合宿所の改善・体育館音響改善・パーベキュー施設・生協設立等
91. 3	・学生会館、食堂に関する要望・合宿所問題・グラウンド整備等
91. 6	・施設改善(英語検定に対応する資料室、体育館更衣室、ピアノレッスン室、個人用ロッカー改善、教室の机椅子の改善、教室スピーカー改善、プールの設置等)・カリキュラム問題・ゼミの決め方に対する要求等
91. 12	・英語科カリキュラム問題・教養科海外研修要求・施設改善(学生ホールの改善、自販機増設、学生ホールから図書館への通路の改善等)

92. 7	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善(学食の席数増、管理棟トイレの学生使用、管理棟前掲示板の改善、ピアノレッスン室防音、教室の冷暖房化、合宿所建設、テニスコート増設、体育館更衣室の改善、長椅子の修理、サークル棟建設等)・カリキュラム問題・図書館問題(視聴覚設備、開館時間延長、コピー代の値下げ)
92. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善(コピー機増設、学生用駐車場の建設、冷暖房の完備、公衆電話増設、ゼミ室の設置、長椅子の改善、ロッカールームの設置、体育館シャワー改善、サークル棟建設、グラウンド出入口の増設、グラウンド整備、合宿所建設、顧問制度、体育館・学生会館などの休日使用等)、カリキュラム問題等
93. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善(自販機増設、公衆電話増設、食堂座席数増、掲示板の位置、学生用駐車場、パソコン導入、冷暖房完備、キャッシュコーナー設置、トイレ改善、渡り廊下改善、憩いの場設置、サークル棟建設、ピアノレッスン室防音、合宿所改善、テニスコート増設等)・カリキュラム問題(時間割の工夫、秘書関係科目の卒業単位化、英会話教員選択等)
93. 11	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善(公衆電話増設、自販機増設、学生用駐車場、トイレ改善、食堂席数増、教室の椅子の改善、冷暖房完備、グラウンド整備と照明、ゼミ室整備、体育館の冷暖房化、通用門整備、合宿所建設、ピアノレッスン室の防音等)・カリキュラム問題(時間割の工夫、秘書検定・英語検定のための課外授業、英会話教員選択、第二外国語開講、秘書関係科目の卒業単位化、授業内容に対する苦情処理等)
94. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車通学の自由化・施設改善(公衆電話増設、学生食堂規模拡大、黒板改善、トイレ改善、冷暖房化、体育館の冷暖房化、通用門の整備、コピー機増設、合宿所建設、ゼミ室建設、ピアノレッスン室の改善、サークル掲示板設置、広い教室の建設等) ・カリキュラム問題(選択科目の組合せの工夫、保育科でのワープロ授業開講等)
94. 11	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車通学問題・施設改善(学生用駐車場、通用門整備、自販機増設、公衆電話増設、教室の冷暖房、学生ホールの立て替え、有松駅からの案内標識、グラウンド整備、大学祭準備のための作業場設置等)・カリキュラム問題(時間割の工夫、第二外国語の選択、秘書関係科目の卒業単位化、他学科授業の受講等) ・学生会補助費の増額
95. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・施設改善(学生ホールの改築、サークル棟建設、掲示板の位置、自販機増設、グラウンド整備と照明、ロッカールーム、全教室の冷暖房、公衆電話、鍵の付く傘立ての設置、学内歩道の整備等)・カリキュラム問題(公欠問題、秘書関係科目の卒業単位化、時間割の工夫、各教員の授業内容見直し等)・自動車通学の自由化

96. 9	・施設改善(教室の照明改善、キャッシュコーナー、グラント照明)・図書館開館延長・カリキュラム・生協設立・経理公開
96. 12	・自動車通学の自由化、施設改善(学生ホールの改修、学食の座席数、トイレ問題、学食の味と価格問題)・生協設立
97. 9	・施設改善(掲示板増設、セミナーハウスの水道の改善エアコン操作の時期)・公欠問題、カリキュラム改善・サークル棟の建設
98. 2	・施設改善(キャッシュコーナー、10円コピー機、掲示板、ゴルフ練習場の更衣室)・学食のメニューと価格、自動車通学、生協設立
98. 9	・施設改善(学食の席数、トイレの改善)・公欠問題・自動車通学・昼休みの事務受付
99. 1	・施設改善(階段、教室移動方法、教室の時計、カギ傘立、自転車置き場)・カリキュラム改善
99. 7	・施設改善(全教室へエアコンを、時計の修理、体育館更衣室の改善、トイレ改善、校内ベンチの清掃)・カリキュラム問題 ・(図書館開館時間延長・学内書店倒産に伴う緊急質問状
00. 1	・軽食喫茶の撤退後の対応策・施設改善(夜間照明、体育館の空調、ピアノ調律)・学内売店問題
01. 7	・施設改善(トイレ問題・教室の空調、自販機増設、学内書店の営業時間延長問題
02. 6	・セミナーハウスの改善・学食問題(混雑改善、メニュー問題) ・ピアノ調律・昼休み中の事務受付問題・掲示板増設
02. 12	・保育学部の校舎について・学内売店の営業時間・施設改善(自販機、時計増設)・喫煙場所の設置・図書館開館時間の延長問題
03. 7	・学食改善(座席数)・ピアノ室の防音と増設・パソコンの増設 ・トイレの改善・指定喫煙場所の変更
04. 11	・学食の改善(座席数、メニュー)・自販機増設・ピアノ問題(防音、増設、調律)・駐輪場増設・売店問題(営業時間の延長)
05. 7	・掲示板の設置(通用門付近)・学食問題(座数とメニュー)・売店の営業時間延長・コンビニの設置
06. 4	・トイレの改善・ピアノ調律・校舎の増設・おみくじ階段の照明改善・ATMの設置・カラーコピー機の設置・最寄駅に急行電車を止める問題・学内全面禁煙要求・学食及び売店問題(営業時間延長、メニュー改善)・図書館開館時間延長・駐輪場の増設・6号館前の駐車禁止・学内のアスベスト調査について
06. 5	売店の営業時間の延長 カラーコピー機の設置

06. 10	・施設改善(教室内外の時計点検と修理・トイレ修理・セミナーハウスの備品買い換え・ピアノ室の防音化・学食メニューの改善・111教室の改造(裏口設置)・1号館非常階段下の木の剪定・ラインカーの設置場所・グラウンド整備・おみくじ階段の照明・雨漏りの修理
07. 6	・カップラーメン、パン類の自販機設置・電子レンジの設置・トイレに棚とフックの設置・学食メニューの改善・セミナーハウス等のシャワー室の清掃・トイレ等に芳香剤の設置・トイレ等に石鹸の設置
07. 11	・学食の増設、学食の席数の増加・学内のバリアフリー化・学費問題・トイレの改善(音姫の設置)・3号館の改善・学食の混雑解消(食券問題)・掲示板のメール化・公欠問題(就職活動)・学内の建設工事の詳細説明(7号館建設を巡って)・自動車通学問題
08. 6	学食増設・学食への券売機導入・パンの自販機増設・学生会館への電子レンジ設置・教室の机と椅子の改善・通用門周辺への街路灯増設・自動車通学問題・通学のためのマイクロバスの導入
08. 12	・7号館への自販機設置・菓子類の自販機増設・教室設備改善と全教室への時計設置・学食の増設・トイレの改善・学生会補助費の増額

